

研究者のワークライフバランス(WLB)WG、大規模 アンケート調査のフォローアップWG活動報告

第三回大規模アンケート調査にみるワーク・ライフ・バランス

東京大学大学院新領域創成科学研究科 江尻晶

内容

- 背景・目的
- 解析対象の基礎データ
- 在職場時間、自宅仕事時間
- まとめ

背景・目的

Work & Life

近年ワークライフバランス(WLB)の推進が浸透しつつある。
しかし、研究者の場合
長時間労働⇒業績、ポスト、研究費
と考えられ、WLB推進の障害となっている。

男女共同参画学協会連絡会のWG

研究者のワークライフバランス(WLB)WG

大規模アンケート調査のフォローアップWG

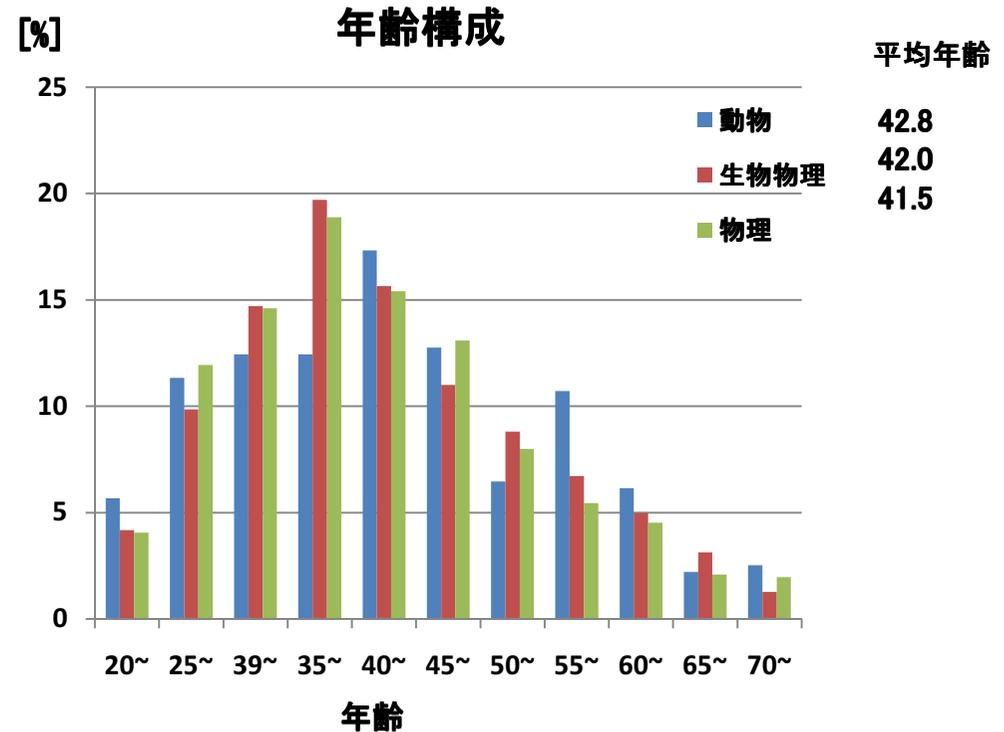
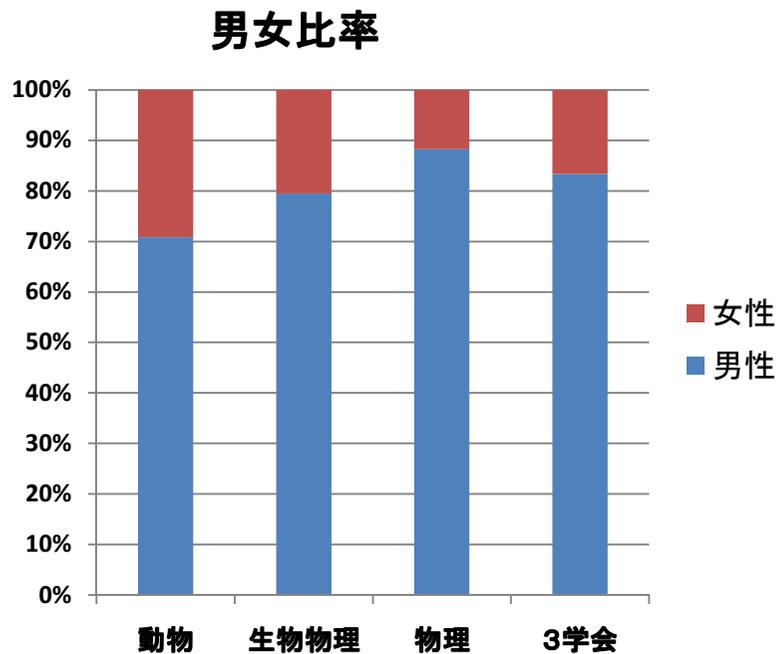
で、2012年に行われた「第3回大規模アンケート(注)」からの抜
粋データ(動物学会、生物物理学会、物理学会所属者のデータ)
のWLBに関する項目を解析した。

(注)「第3回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」男女共同参画学協会連絡会(2013)

解析対象と基礎データ (I)

Work & Life

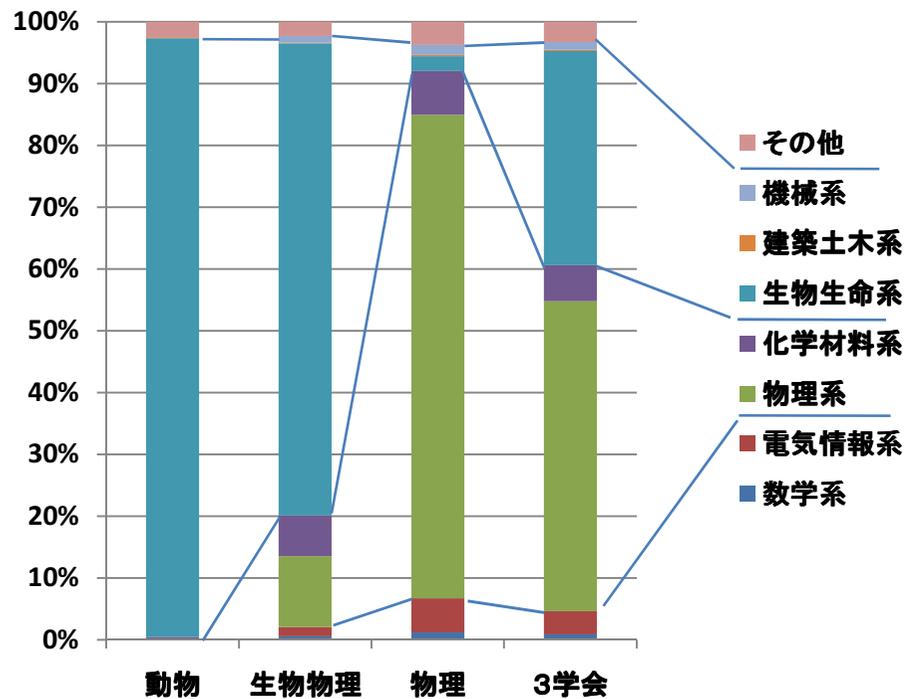
WGのメンバーである動物学会(635名)、生物物理学会(863名)、物理学会(2216名)に所属する回答者のデータ3570名分である。



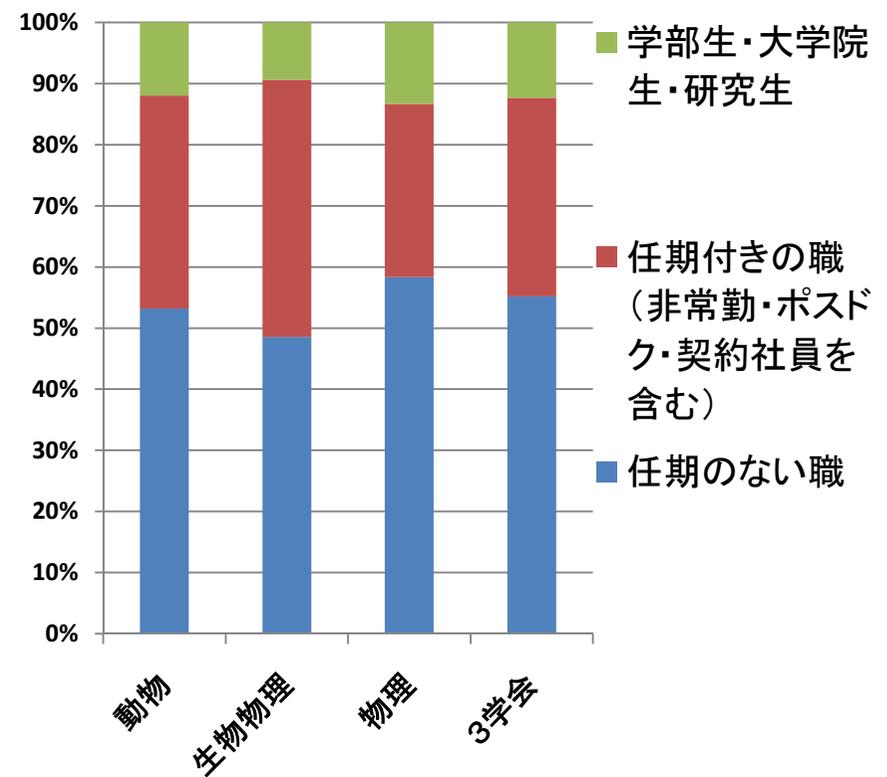
解析対象と基礎データ (II)

Work & Life

専門分野

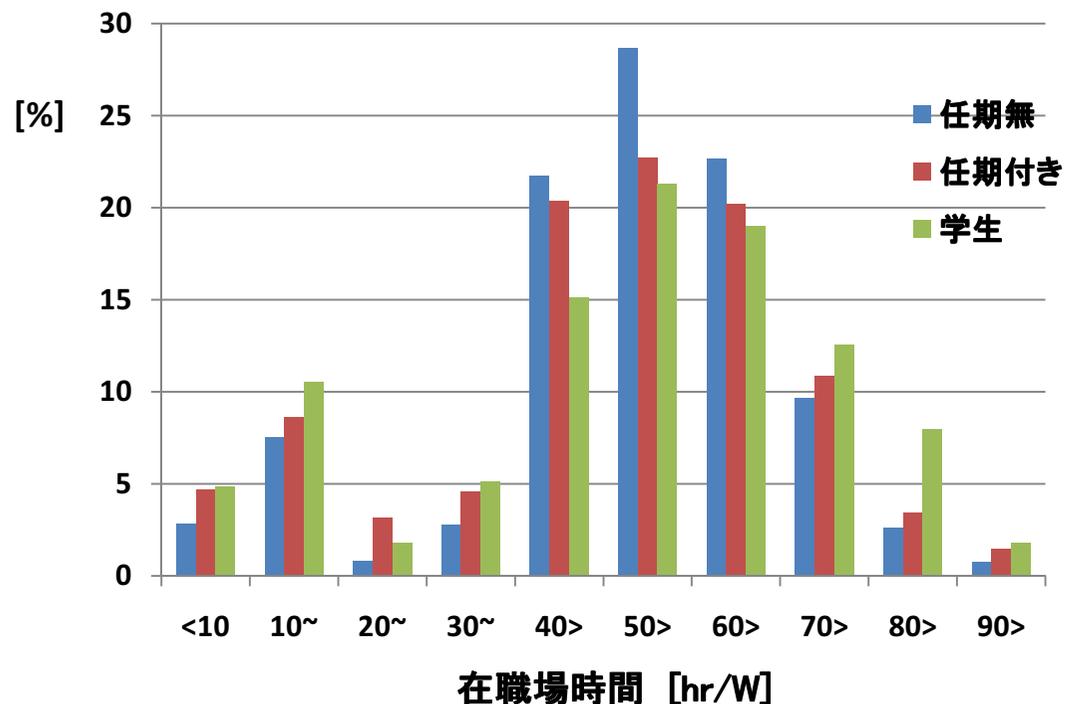
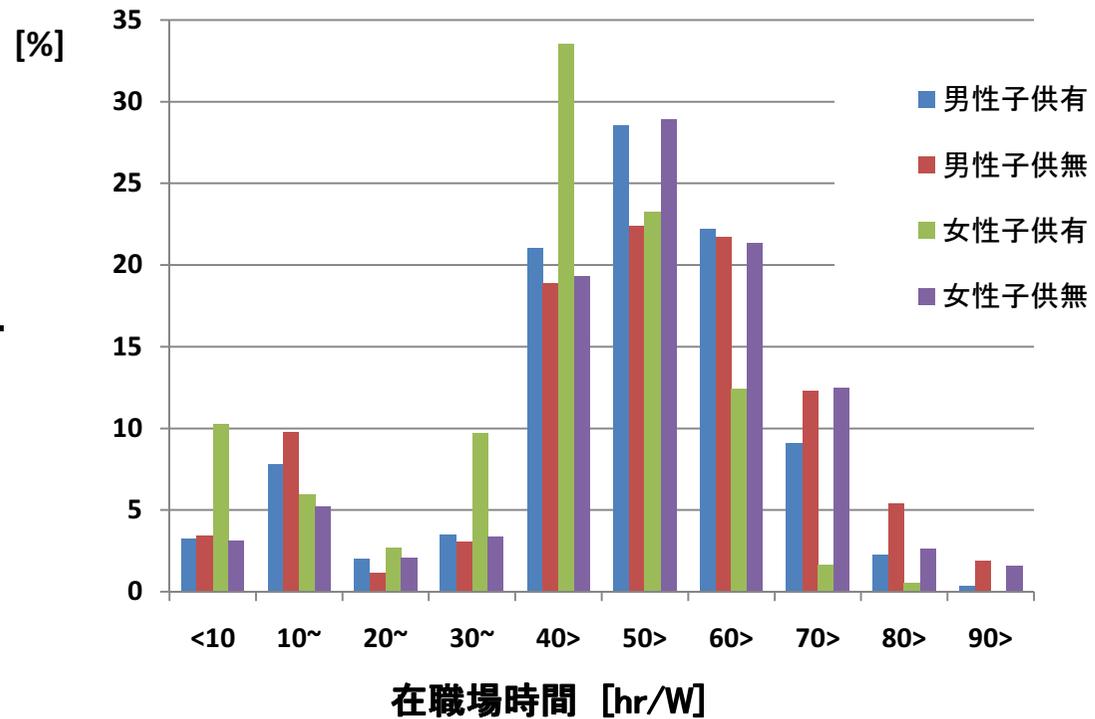


雇用形態



在職場時間 (週当たり)

- 20時間未満に別のピークがある。
- 男女、子供の有で差
- 学生は長時間職場(大学)に居る。
- 非常に長時間(70時間以上)のケースがある。

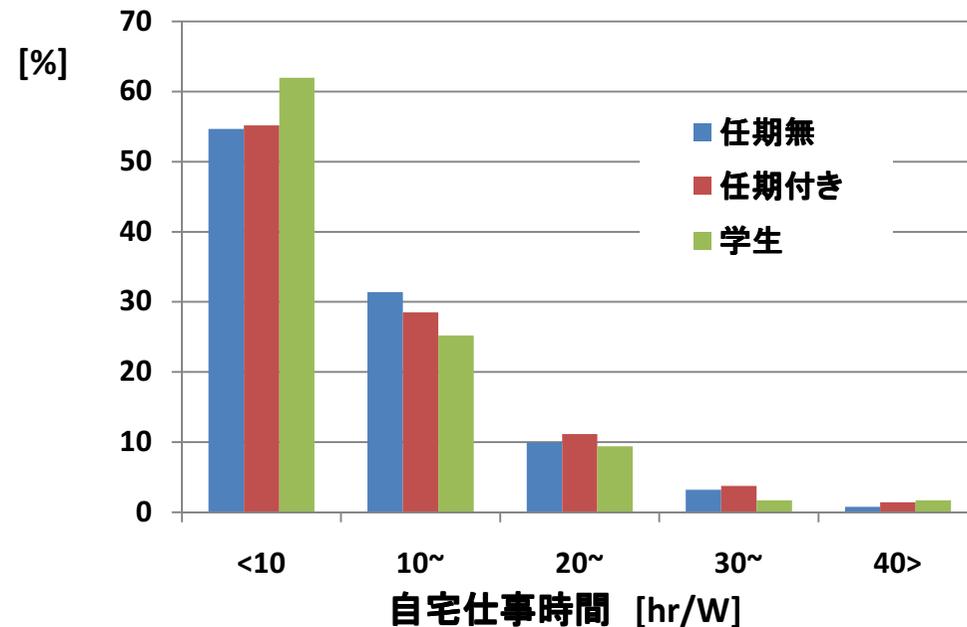
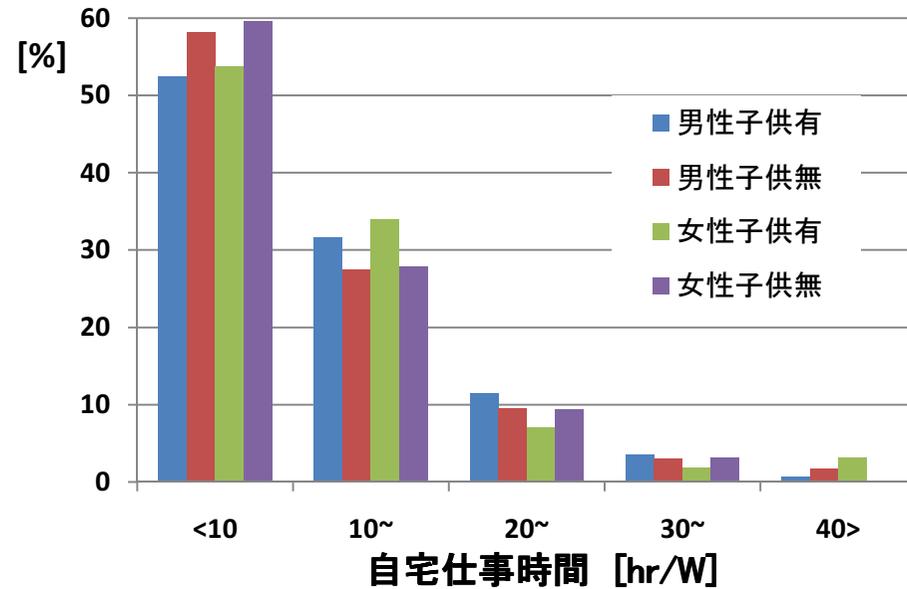


自宅仕事時間 (週当たり)

●男女、子供の有で差は小さい(が、詳細は次ページ以降で解析)

●学生は自宅で仕事しない傾向がある

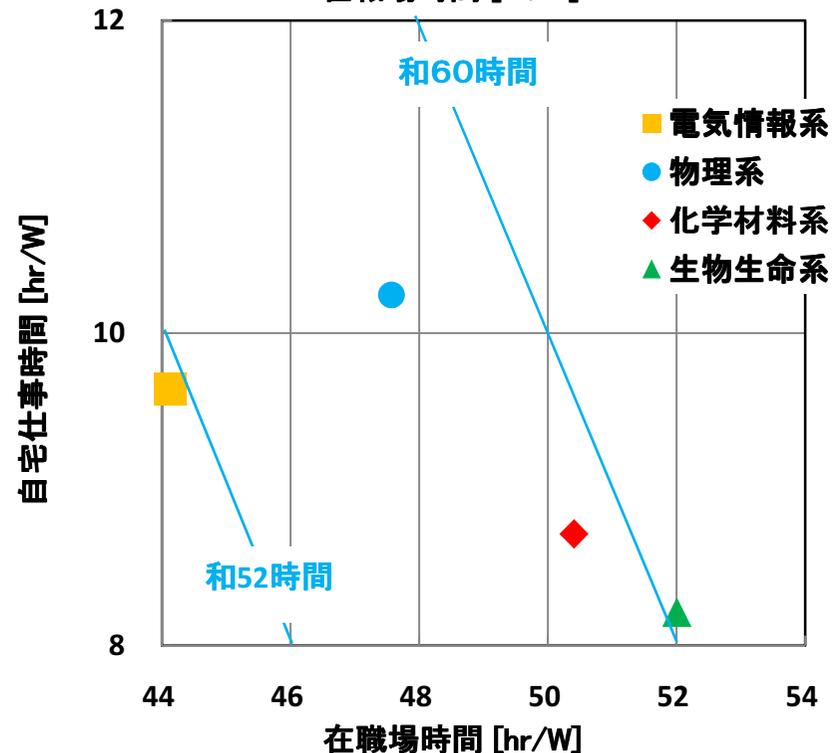
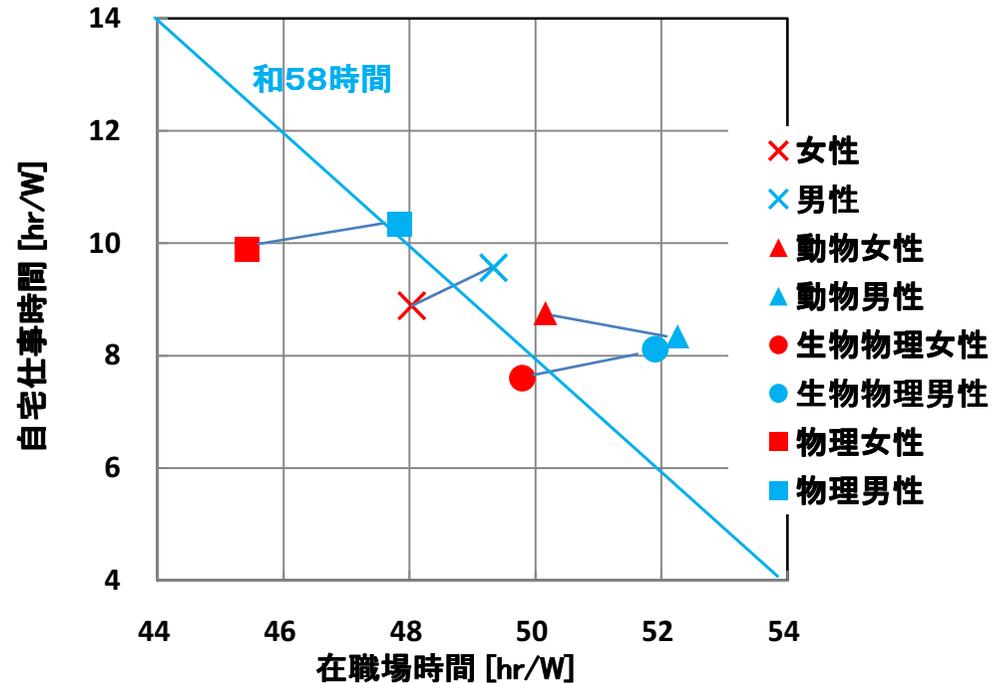
●非常に長時間(40時間以上)のケースがある。



学会、専門の違い

横軸に在職場時間、縦軸に
自宅仕事時間を表示

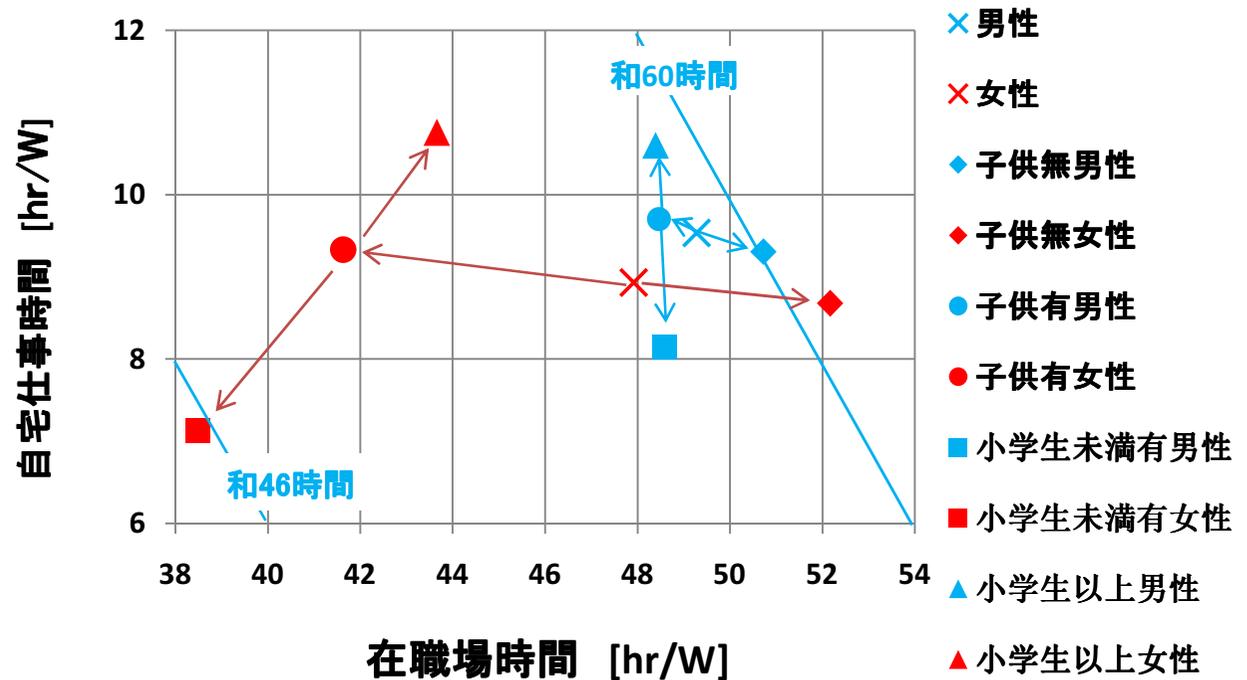
- 男女は在職場時間が2時間程度異なる、自宅仕事時間の男女差は小さい。
- 物理学会は、動物学会、生物物理学会より在職場時間が4時間ほど少ないが、自宅仕事時間は2時間ほど長い。
- 専門分野により、在職場時間が異なることと学会の差が関連していると思われる。



子供の有無の影響

Work & Life

- 男女ともに子供がいる場合は、在職場時間が減る傾向がある。
- 子供も(一番小さい子が)小学生未満の場合と小学生以上の場合で異なる。
- 女性の方が大きな影響を受け、男性の場合は影響が小さい。

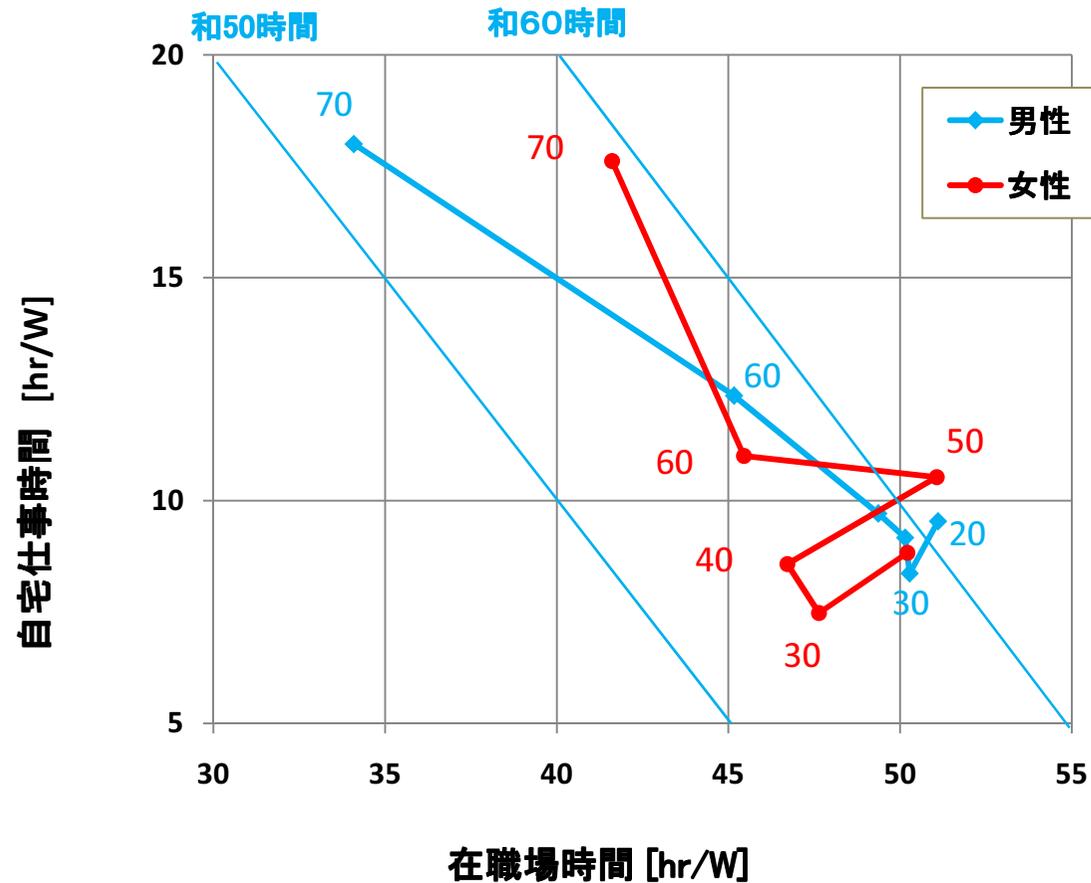


年齢の影響

Work & Life

男女別に20代、30代、、、
の軌跡を表示

- 年齢が上がるにしたがって、在職場時間が減り、自宅仕事時間が増える傾向があるが
- 女性の場合は、20代～50代での動きが激しい。これは、他の要因(たとえば子供の有無)が大きいためかもしれない。



まとめ

2012年に行われた第三回大規模アンケートの動物学会、生物物理学会、物理学会所属者(合計3570人)のデータのうち、在職場時間、自宅仕事時間を解析した。

学会、専門、男女、子供の有無、年齢などの影響を受けることが分かった。

在職場時間が長くなる要因として、男性、生物生命系専門、子供無、若年齢が挙げられる。

自宅仕事時間が長くなる要因として、高年齢、物理系専門、小学生以上の子供が挙げられる。

解析メンバー

Work & Life

代表、データ管理責任者

江尻晶、日本物理学会、東京大学

データ利用メンバー

ジョン・フラナガン、日本物理学会、高エネルギー加速器研究機構

小形正男、日本物理学会、東京大学

佐藤恵、日本動物学会、日本大学

箕浦高子、日本動物学会、中央大学

日下部岳広、日本動物学会、甲南大学

有坂文雄、日本生物物理学会、東京工業大学